(8)中国



中国地域では、景気は改善の動きに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産はこのところ減少している。
- · 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、この ところ持ち直しの動きが強まっている。

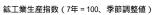
前回調査からの主要変更点

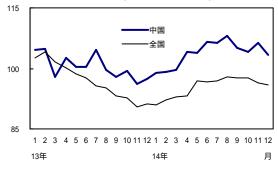
1374 THE 1 TO TAX 2 T					
	前回 (平成 14 年 11 月)	今回(平成15年2月)			
総括表現	緩やかな改善の動きがみられる	改善の動きに足踏みがみられる			
鉱工業生産	増加傾向	このところ減少			
住宅建設	おおむね横ばい	減少			

1.生産及び企業動向

(1)鉱工業生産はこのところ減少している。

化学は、アジア向け輸出は高水準で推移しているものの、国内需要の低迷から減少している。一般機械は、一般用ボイラーや印刷機械などが増加した。鉄鋼は、輸出向けや自動車向け需要が強く、依然フル操業を続けており、おおむね横ばいである。電気機械は、携帯電話関連が国内、海外ともに需要が堅調であり、横ばいとなっている。自動車は、新型車効果に薄れがみられるなど、好調であった北米向けの輸出にこのところ一服感がみられる。





(備考)平成14年12月の中国は軽傾。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率)

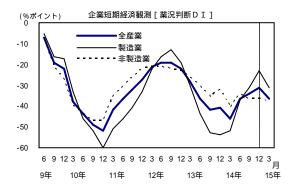
(%)

		生	産	出荷	在庫
	付加価値 ウェイト	7 ~ 9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
化学	16.5	2.3	2.7	3.4	2.4
一般幾戒	11.5	0.1	3.5	2.1	1.3
鉄鋼	11.4	2.5	0.8	3.1	1.1
電気機械	10.3	5.3	0.0	0.9	14.7
自動車	9.8	12.0	5.5	1.8	0.6
鉱工業	100.0	1.7	1.9	2.6	3.9

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2.10~12月期は速報値。

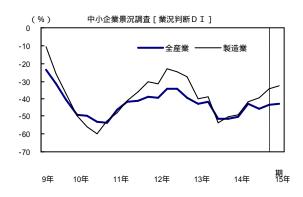
(2)企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。 企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI]及び中小企業景況調査 [業況判断DI]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年3月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年3月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1月調査)[企業動向関連(現状判断)]

「国内については、依然自動車販売が堅調な推移を示しており、また至近でもアジア向けの高い要望に 支えられて、粗鋼生産はほぼフル操業を継続している (鉄鋼業)」など、「変わらない」とする回答が多 くみられた。

(3)設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。 非製造業では、電力・ガスの増加により、前年度実績を上回っている。

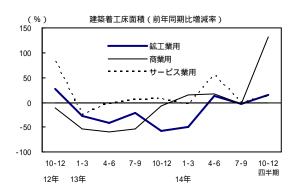
企業或解釋預測調查[設備投資(12月調查)]

(前年度比増咸率	単位	:	%)
----------	----	---	----

	•	
	13 年度実績	14 年度計画
全 産 業	13.9	2.8(2.3)
製 造 業	12.9	8.6(1.2)
非製造業	14.9	2.7(3.3)

(備考)ソフトウェアを含む設備投資。

()は前回(9月)調査比修正率。



2 . 需要の動向

(1)個人消費はやや弱含んでいる。

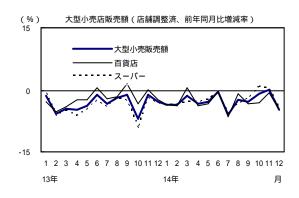
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、11 月に気温が低めに推移したこと等から冬物衣料品に、歳暮ギフトの前倒しにより食料品に、 それぞれ動きがみられたが、歳末商戦は低調であった。10~12 月期を通じてみると主力商品である衣料 品は伸び悩みを続け、前年を下回って推移している。

スーパーでも、11 月の気候要因により冬物衣料品や食料品に動きがみられたものの、歳末商戦は低調であった。10~12 月期を通じてみると主力の飲食料品は伸び悩みを続け、他品目にも目立った動きがみられなかったことなどから、前年を下回って推移している。

景気ウォッチャー調査 (1月調査)[家計動向関連DI(現状判断)]

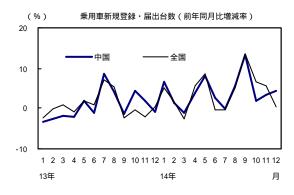
「宴会時における客のドリンクの追加が減少している (観光型ホテル)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

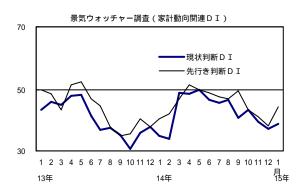


		(前年同	(前年同期比増咸率、単位:%)		
	14年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	
大型小売店	3.0	2.1	3.9	2.2	
百貨店	2.2	2.6	4.0	3.1	
スーパー	3.4	1.8	3.8	1.6	
無用車	1.3	4.8	6.3	3.3	
景気ウォッチャー	39.2	48.4	44.3	39.8	

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗を発え

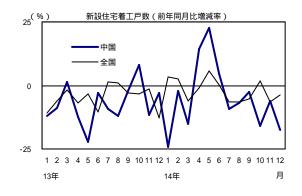
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の 現状PMDIの3か月単純平均。

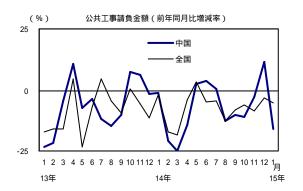




(2)住宅建設は減少している。 分譲を中心に前年を下回っており、減少している。

(3)公共投資は年度累計でみると前年を下回っている。



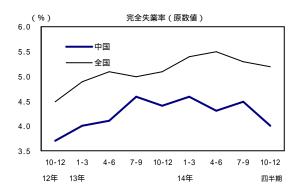


<u>3 . 雇</u>用情勢等

(1)雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている。 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。





景気ウォッチャー調査 (1月調査) [雇用関連(現状判断)]

「新規求人は電気機械器具製造業からの求人が増加する一方で、建設業や卸小売業からの求人が大幅に減少し、総じて減少傾向となっている (職業紹介所)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

- (2)企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。
- (3)消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

				(件、億	訊 %)
	14年1-3月	4-6月	7-9 月	10-12月	15年1月
倒産件数	233	220	248	254	64
(前年比)	7.9	15.1	6.0	10.0	9.9
負債総額	975	480	850	791	220
(前年比)	44.1	28.7	11.5	43.2	35.1



景気ウォッチャー調査 (1月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

< 現狀 >

- ・ライバル店のチラシ回数が増加している。価格訴求のほかに、粗品進呈、抽選会等、かなりの経費をかけている(スーパー)。
- < 先行き >
- ・全体的な販売量の動きからみて、改善の兆しがみられる部門はなく、依然回復傾向はみられないが、 下降傾向にはなく、当面現状のまま底の状態で横ばいとなる(コンビニ)。

